継続活動成果（3年目）

DX推進ハンドブック（概要版）

2023

高知県中小企業等デジタル化促進モデル事業

はじめに

中小企業デジタル化促進モデル事業は、デジタル化に取り組む意欲を持つ中小企業に対して、「デジタル化計画の策定支援」「デジタル化計画の実行支援」「社内の人材育成」までを一貫して行い、県内の中小企業がデジタル化に取り組むきっかけとなるモデル事例を創出し、その成果と過程を県内に広く普及することにより県内企業のデジタル化の促進につなげることを目的に実施しました。

令和２年12月から始まったこの取り組みを通じて、高知県の未来を担うデジタル化促進モデル企業が５社誕生しました。

本冊子は、モデル企業5社の取り組みの過程や、取り組みにより得られた効果などを検証・整理した事例集「DX推進ハンドブック」の第三版です。モデル企業各社が令和５年４月から令和６年３月末までの間、デジタル化の取り組みをさらに重ねた成果や新たなチャレンジなどを追記して、一層充実した内容になっています。

高知県
Kochi Prefecture

高知県デジタル化促進モデル 全体像

本事業では、デジタル化促進により組織を変革していく活動を推進するため、3つの支援メニューを準備しており、3年目は、2年目同様「デジタル技術投資」「資金調達」に注力した活動を展開しました。
これらの支援と組織活動を組み合せたプロジェクトを、高知県内のモデル企業5社と継続実施をしました。

DX Digital Transformation
デジタルテクノロジーを活用して、既存のビジネスを変革したり、新たなビジネスを生み出し、企業の競争力を高めること

本事業の目的
デジタル化促進を図ることで、付加価値や生産性の高い事業構造への変革につなげる

組織活動

モデル企業5社 デジタル促進活動
企業課題をデジタル技術の適用から解決に導く

行政/専門機関/IT事業者等支援メニュー

継続3年目
注力領域

①人材投資
- 時代感、トレンド等をインプットし、マインド醸成
- リーンスタートアップ手法等プロジェクト推進手法
- AI/BI/Cloudなどの技術や主要ツールの概念理解

②デジタル技術投資
- オンラインミーティング/ChatOps/プロジェクト管理等、デジタルツールの活用
- データプラットフォームの導入、構築、運用
- AI/BIなどの実装ツール導入

③資金調達
- 本事業での少額支援
- 補助金活用、IT導入補助金/ものづくり補助金等
- 地域金融機関支援

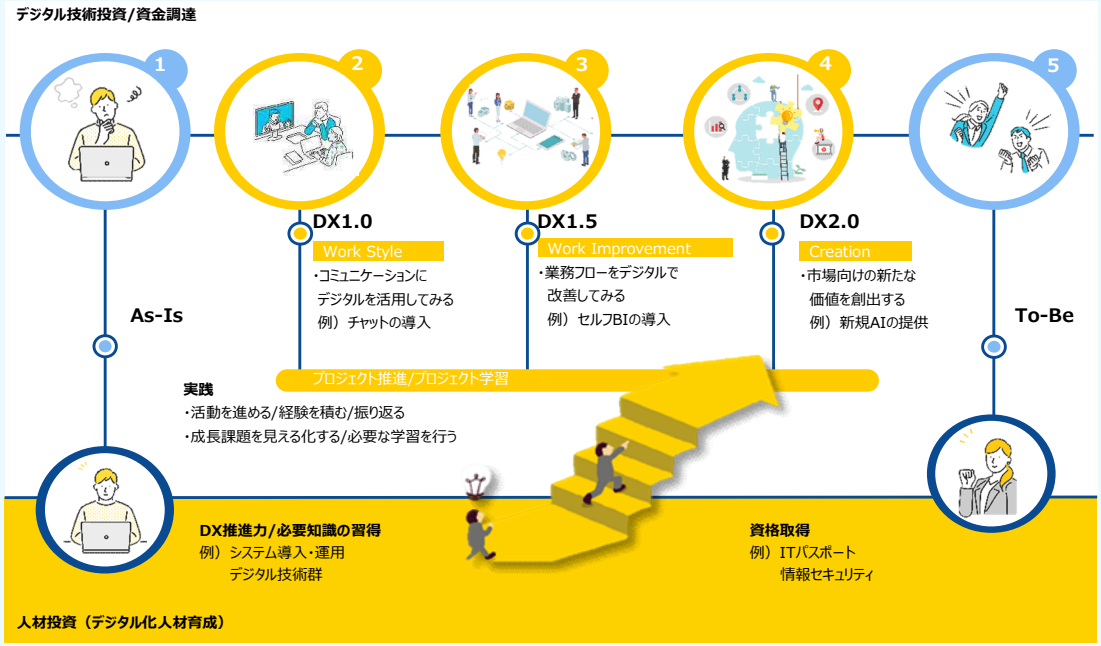
高知県デジタル化促進モデル

DXモデル ↔ **DX活動プロセス**

高知県デジタル化促進モデル

DXモデル

DXは一朝一夕に実現されるものではなく、また一足飛びにも実現できません。DXのビジョンは大きく、プロセスは堅実に進める必要があります。継続３年目も以下のモデルを活用し、ステージアップを行いました。



DX活動プロセス

上記のDXモデルを堅実に進めていくための活動プロセスを、モデル企業の取り組みから5つのStepに整理しています。

Step1	Step2	Step3	Step4	Step5
現状分析	未来構想	デジタル化計画立案	デジタル化実装	評価/次期計画

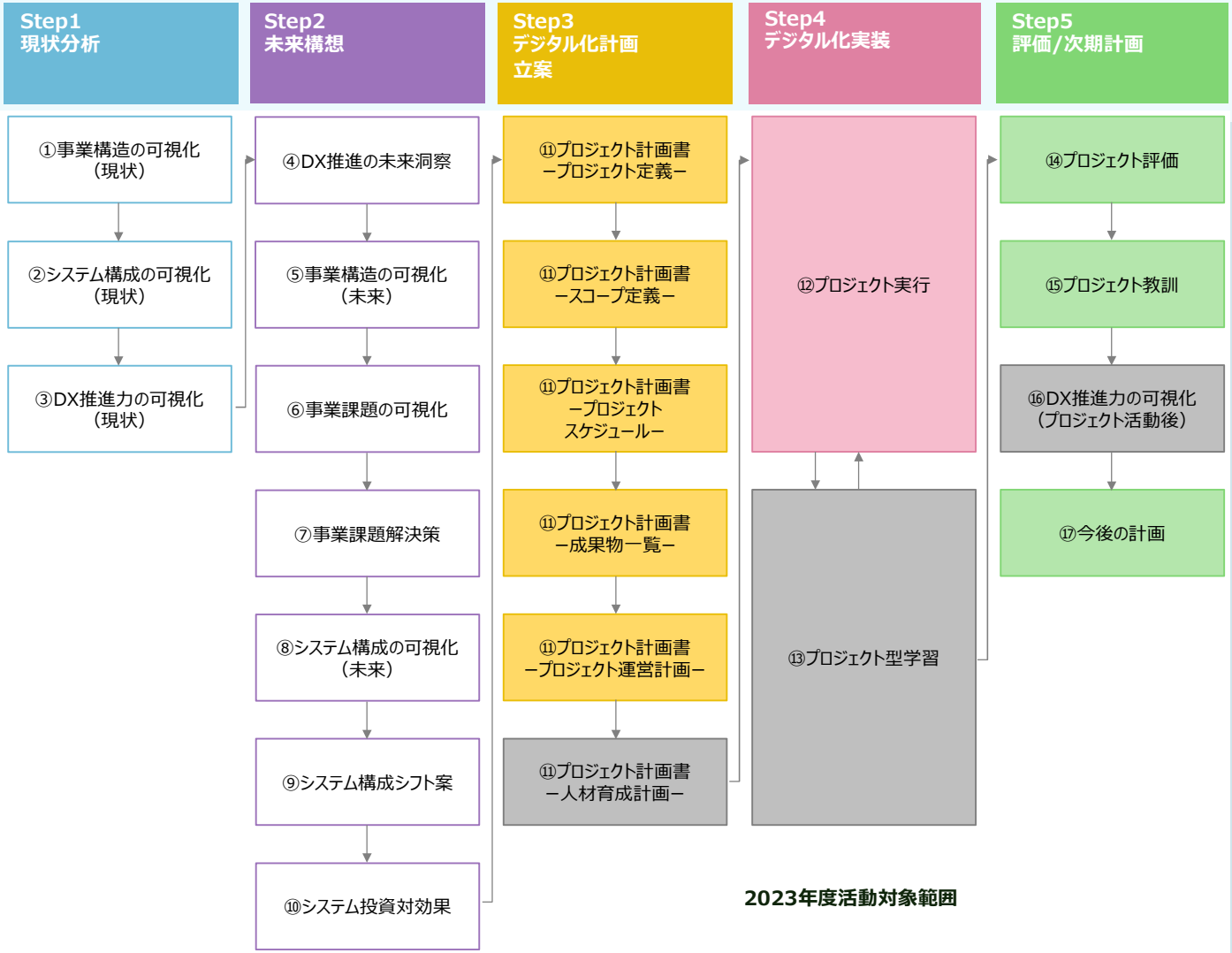
※各プロセスで具体的に実施することは、本体資料に詳しく掲載しています。

高知県デジタル化促進モデル 全体像

高知県デジタル化促進モデル（5Step/17Action）

モデル企業の取り組みをトレースし、5つのStepを更に17のActionに細分化してプロセス化しています。
継続3年目は、⑪ ⑫ ⑭⑮⑰ に焦点化した活動をモデル企業5社にて行いました。

DX活動プロセス



DX実践ポイント

現代はVUCA時代と言われています。つまり変化が早く、不確実性が高く、複雑で、曖昧な時代です。
そしてボーダーレス化も進みます。先を見据える力と同じくらい**“実行する力”**の重要性が高まっています。
データやAIで差別化できるのは、今だけです。パソコンもExcelもインターネットもスマートフォンも、すでに多くの企業が使っています。アクションし続けることに挑戦してください。

Act-First

- DXは段階的に推進する
  - As-Is　現状
  - DX1.0　Work Style　コミュニケーション変革
  - DX1.5　Work Improvement　業務変革
  - DX2.0　Creation　新しい価値の創出
  - To-Be　ありたい姿
- データを知る/キレイな（デジタル）データについての重要性を認識する
  - 正しく、欠損の少ないデータを持っているからデータ分析やAI適用で成果が出る
  - 自社データは貴重だが、自社だけでは限界があることを知り、他社、パートナー、オープンデータ等を活用する
- テクノロジーを知る/AIを知る（AIはトレンドではなくメインストリーム）
  - データを活かすのがテクノロジー　データを使った価値創出 ≒ AIを活用した価値創出
  - 価値創出は「非属人化」、「省力化」、「品質向上」の3点に大別される
- 課題ドリブン、仮説思考、ドメイン知識ありき
  - 技術、データではなく、課題から着想する
  - 課題毎にData、Information、Value、Achievement の4つを抽出する
  - 特定課題一つを検討するのではなく、課題を一覧化し、ROIの高い課題に絞り込んでいく
- 人材の育成（概念理解の重要性）
  - 最低でもひとり、主要テクノロジーの概念を理解している担当者の育成は必須
  - ベンダーコントロールをしっかり実施するためにも知識習得が欠かせない
- 伴走してくれるパートナーを見つける
  - あらゆる意味でパートナーは重要　技術的な活用ポイントや未知のデータは山ほどあり、技術やツールはもちろん、データそのものにも精通するメンターの存在が必要

※各プロセスで具体的に実施することは、本体資料に詳しく掲載しています。

モデル企業５社の主要活動成果①

DX活動プロセスの5つのStep/17のActionを実際に実施したモデル企業の主要成果を以下に示します。

モデル企業

株式会社 垣内

S&Q

DX認定

３年目開始時

業務

- ■人力での溶接作業
- ■物品管理の人力管理
- ■遠隔地の顧客先での保守作業

組織

- ■デジタル技術の導入に積極的
- ■デジタル化推進が当たり前の文化へ
- ■属人化されたスキル・ノウハウのデジタル化、共有促進中

３年目終了時

取り組み後の主要な変化を記載します。

数値評価

- ■ロボットにて溶接した部品
  35種類、298個
- ■物品管理用QRコード作成
  1,574品目
- ■自社製品の稼働監視試用設置
  顧客先2カ所

取り組み後の変化

- ■実機操作不要。仮想空間内で動作プログラムを作成することで作業負荷を軽減
- ■従来より短時間で物品の点数確認／適正在庫との差異が確認可能
- ■遠隔監視により、顧客を待たせない保守サービス開始、かつ担当者の負荷軽減

高知通運株式会社

高知通運 高知運輸 KOCHI EXPRESS GROUP

DX認定

業務

- ■配車表の個別帳票、Excel残存活用
- ■配車表の人力作成（一部AI利用）
- ■社内システムの拠点個別管理

組織

- ■アナログ作業からの脱却文化が習慣化
- ■DX推進による利便性の認知拡大
- ■情報セキュリティへの取り組み継続推進中

数値評価

- ■配車表の完全Web化
  発荷・複荷配車表 100%Web運用
- ■配車表作成のAI予測、最適化支援
  人員4.0名→3.5名で継続対応
- ■経理・給与システムの統一
  ネットワーク統合と併せて進捗100%

取り組み後の変化

- ■Web化の有用性を担当者が理解し、紙や個別Excelから脱却した配車表作成へ
- ■配車担当者の経験とAIの参考値を組み合わせた計画可能
- ■社内ネットワーク、システム、情報セキュリティ対策による安定したITインフラ実現

株式会社城西館

四国 高知の老舗旅館 城西館 Jyoseikan

業務

- ■データ入力の人力作業
- ■データ分析の人力作業
- ■残存している紙媒体での業務オペレーション

組織

- ■SaaS事業者/ITベンダーとの交渉や話し合い習慣化
- ■DX活動が業務の一部として順次定着中
- ■DXの進め方を予定-実績化

数値評価

- ■勤怠/労働時間集計作業
  10時間／月削減
- ■電子宿帳導入による転記作業削減
  入力作業時間　20時間／月削減
- ■業務分析用資料の作成自動化
  分析結果　20形式に対応中

取り組み後の変化

- ■勤務時間の入力作業や出勤簿との突合せ等の人力作業を順次軽減中
- ■お客様の記帳時間の短縮と、担当者の転記作業を軽減
- ■重要指標／その根拠となる数値データの見える化と資料作成のスピード化実現

モデル企業５社の主要活動成果②

DX活動プロセスの5つのStep/17のActionを実際に実施したモデル企業の主要成果を以下に示します。

モデル企業

３年目開始時

３年目終了時

取り組み後の主要な変化を記載します。

新進建設株式会社

新進建設 SHINSHIN CONSTRUCTION INC.

業務

- ■属人化領域作業の見える化を順次実施中
- ■新ソフトウェア導入や業務フロー変更を試行錯誤実施中
- ■デジタル社内教育を順次提供

組織

- ■業務へのデジタル化が浸透
- ■デジタル化の浸透と併せて社内ルール整備中
- ■データ共有のデジタル活用変革中

数値評価

- ■工程表のソフトウェア利用
  作業時間　10時間/現場 減
- ■建築積算業務の業務見直し
  データ入力/チェック　80時間/件 減
- ■新基幹システム導入後フォローアップ
  決算処理時の処理ミス　100%減

取り組み後の変化

- ■属人化されたExcelによる工程表作成を専用ソフトウェア利用から型化
- ■単純な業務／複雑な業務の双方ともに見える化/標準化/集約化/システム化を一括整備

和光商事株式会社

業務

- ■PC操作レベルにバラツキ有
- ■現行業務フローの維持から改善へ変革中
- ■情報セキュリティを中心とした業務オペレーションの見直しを検討中

組織

- ■デジタル化への抵抗感が減り、新しいことを試行していく文化へ移行中
- ■他部署との交流増加
- ■長年のアナログ業務からの脱却加速中

数値評価

- ■PC操作レベル向上
  資料作成時間　約60分/月 削減
- ■バックオフィス業務の見直し
  事務作業時間 約1,000分/月 削減
- ■管理資料（端末、勤怠等）整備
  管理表、台帳運用100%稼働中

取り組み後の変化

- ■PC操作の社内勉強会から基礎リテラシーの底上げ実現
- ■属人化業務の第三者点検／意見交換から改善活動が加速
- ■不足していた管理資料の作成、運用がオペレーション化

※各モデル企業の具体的な取り組み内容は、本体資料に詳しく掲載しています。

モデル企業経営者の取組の感想／県内企業様へのメッセージ

株式会社垣内
代表取締役社長
垣内大輔

メッセージ

本事業に取り組んで３年が経過しましたが、製造部門・管理部門とも随分効率化が進んだ
ことを実感しています。会社全体の時間外勤務時間は本事業前から３割ほど減少し、社員のワークライフバランス推進や労働災害防止にも繋がっています。自社製品のIoT機能も、実装して顧客に提供できるところまで進歩しました。デジタル化を進めるためには、日々の努力と継続的な知識の吸収が必要ですが、必ず良い結果に結び付きます。まず第一歩を踏み出しましょう！

高知通運株式会社
代表取締役
曽志崎　雅也

メッセージ
高知県DX事業のモデル企業として応募する際、物流でDXって？というのが本当のところでした。
参加企業として認定していただくために、デジタルで物流に新しい付加価値をとそれなりの表現を繕ってなんとか認定をしていただきました。
応募審査の際に大手物流会社でも難しい事が実現できるかとの質問があり、末端の現場にいる我々中小企業だからこそできるはずだと、勢いでご回答申し上げたことを覚えています。
石の上にも３年と言いますが、ここにきてやっと小さな光が見えて気がします。これもすべて、ご指導いただきました皆様のおかげです。桃・栗・・柿とは言いませんが、次の３年で結果を出し、自信をもって物流DXを語りたいと思います。

株式会社城西館
常務取締役
藤本　幸太郎

メッセージ

世界では「デジタル化」「DX」が当たり前になりました。まだ、AI技術は始まったばかりだそうです。
当社では、業務を効率化し、顧客への価値向上を目的として、さまざまな課題解決に取り組みました。各プロジェクトに取り組み、今では現場になくてはならないツールも導入することができました。ですが、まだまだ課題は山積みで、顧客への新たな付加価値づくりも途上です。「予測不能な時代」を乗り越えるためには、変化していく組織を作り上げていく気概が大切です。

新進建設株式会社
代表取締役
小川裕司

メッセージ

デジタル化を進めて行くにつれ、幾度となくその前にある組織的な課題に気づかされます。
継続は力なり。社員の声を聞き、課題にいかに取むか。組織としての力が試されていると感じます。

和光商事株式会社
代表取締役
吉村　篤司

メッセージ

重要なDX化への取り組みはDXチームを中心に一歩ずつ進んできたと思います。
全社員の挑戦としては初めての社員が大半なので、足並みを揃える事が重要かつ大変な事だと感じました。
これからも取り組みを継続する事が重要になると思います。
その為にも社員間の情報共有・コミュニケーションを取る事をDXを活用して進めていきたいと思っています。

※各社の具体的取組や各担当者のメッセージは、本体資料に詳しく掲載しています。